

大館北秋田地域林業成長産業化協議会
秋田スギ・認証材利用促進部会

協議記録

日時：令和2年2月18日（火）13：30～15：30

会場：北秋田市役所 第2庁舎1階 第二会議室

大館北秋田地域林業成長産業化協議会 秋田スギ・認証材利用促進部会 出席者名簿（令和2年2月18日）

大館北秋田地域林業成長産業化協議会会員

番号	区分	所属	役職	氏名	備考
1	森林組合	大館北秋田森林組合	参事兼加工課長	普津澤 正行	
16	製材・加工事業者	秋田グルーラム㈱	(欠席)		
17		遠藤林業㈱	(欠席)		
18		㈱沓澤製材所	代表取締役	沓澤 一英	副部長
19		九島木材㈱	(欠席)		
20		藤島木材工業㈱、藤島林産㈱	(欠席)		
21		二ツ井パネル㈱	(欠席)		部長
22		古河林業㈱	秋田工場長	藤島 勉	
23		㈱宮盛	(欠席)		
24	木材需要者	大館曲げわっぱ協同組合	(欠席)		副部長
28	木材流通事業者	物林㈱	住環境システム部長	田口 慎二	
			国産材営業部	関口 祐之	
			プロジェクトマネージャー	齊藤 政子	
29	学識経験者	秋田県立大学木材高度加工研究所	(欠席)		
30	市村	大館市	農林課農林整備係長	小棚木 信晴	
			農林課農林整備係主任	岩淵 裕太	
			農林課農林整備係主任主事	千葉 泰生	
31		北秋田市	農林課林業振興係副主幹	藤田 学	
			農林課林業振興係主事	杉淵 亜希	
			農林課林業振興係主事	長岐 英泰	
32		上小阿仁村	産業課林務商工班主査	田村 勇輝	
			産業課林務商工班主事	市川 淳也	

大館北秋田地域林業成長産業化協議会委託事業者

番号	名称	役職	氏名	備考
1	森林資源バイオエコノミー推進機構株式会社	(欠席)		

大館北秋田地域林業成長産業化協議会オブザーバー

番号	区分	所属	役職	氏名	備考
4	行政機関	秋田県北秋田地域振興局	森づくり推進課主査	小笠原 信幸	

【R01. 06. 18 秋田スギ・認証材利用促進部会】

秋田スギ・認証材利用促進部会では、ロードマップの進捗状況を確認し、事業の到達点の設定を行うため、協議を行いました。

※秋田スギ・認証材利用促進部会…「秋スギ部会」と表記。

【協議内容】

(1) ロードマップの確認について

<オブザーバー（振興局）>

・事業が4月から4年目に入ることもあり、最終カーブに差し掛かっているところである。地域構想及びロードマップがどこまで進んでいるのか県と市村で整理したため、内容について意見をいただきたい。

○「あきたの極上品」等秋田スギ利活用プロジェクト

【1. 民有林の高齢級秋田スギを「あきたの極上品」に位置付けされるよう森林所有者等へ周知する取組】

【2. 木材加工施設整備の推進】

【3. 公共建築物等へ積極的に地元産木材利用】

<秋スギ部会（副部会長）>

・丸太については、樹齢が高いものに関しては秋田スギというブランドがあるということが浸透していると思うが、製品（一般の建築用資材）に関してはなかなか認知されていない。単純に高樹齢で目が詰まっているものだけでは市場で通用しない。

・国で販売している高齢級スギを購入しているのは能代市の銘木会社か県外の銘木会社がほとんど。一般の秋田の製材工場では買わない。

・大館北秋田地域で秋田スギのA材をひく工場はなく、県内でも一部地域にしかない。今の時代、住宅用建材としては難しい部分があると思う。大手住宅メーカーなどの需給にあうものとなると、品質が第一条件であるため、材そのもののブランドは二の次。加工して合うか合わないか。

<秋スギ部会（部会員）>

・実際、民有林には高齢級があるのか。

<事務局>

・大館市：100年を超えるものは少しあるが、質がどうかは分からない。

・上小阿仁村：101年くらいの場所もあるが、場所が悪いため手入れができず、切ることもできないため時間が経ってしまったような場所である。

<秋スギ部会（副部会長）>

・高品質の秋田スギだとか言葉を変えたらいいと思うが、高齢級という言葉が今に合っ

いるかどうか。

・昔の秋田スギのイメージと今の人工林とのギャップがあり、秋田スギのブランド名が一人歩きしているような状態。イメージが成功しているだけではよくないのでは。

<総務部会（副部会長）>

・イメージすることが広く、人によってブランドの捉え方が異なる。ブランド化という言葉を使いがちではあるが、それを嫌う人も中にはいる。残りの期間何ができるのかという考え方でいいと思う。

<秋スギ部会（副部会長）>

・既存の製品を上手く使って、木造の建築物を建てるのも1つの手段ではあると思う。大径材をどうすればよいかと話をされることもあるが、結局のところ最初は製品ありきで話が進む。

<総務部会（副部会長）>

・今後、県や市村で施設等の新築や改修案件がある場合、限定仕様をかけて既存の製品を使って、この地域でできることで設計を依頼することで、今までの流れとは違うことができるのではと思う。この事業期間外になったとしても、それに向けた準備は行えるのではないか。または、木高研の建築関係を担当している方を引き込んでくるなどの手段もあると思う。

<事務局>

・北秋田市：現在、公園等の案内看板の木質化を図るため、各課へ要望調査を行っており、結果に基づいて既存のものを木造にする計画を進めている。

・上小阿仁村：平成29年度に村有林の木材を使用した木造の公共施設を新設。今後、施設の更新が考えられるのは保育園で、部屋数の不足と老朽化が進んでいる。

<秋スギ部会（副部会長）>

・骨格が鉄骨だとしても、内装をどうするのかというのは、コスト面でも課題が出てくるのではと思う。市有林の木材を使用することでコスト削減を目指し、可能な限りの内装木質化を図ってもらいたい。

○森林認証・COC認証取得プロジェクト

【1. 先進地調査】

【2. 取得経費助成】

<秋スギ部会（副部会長）>

・大館市と北秋田市は認証を取得するのか。

＜事務局＞

・大館市：新年度予算でゼロ査定となったが、渋谷区で木材利用方針を策定しているところであり、使用する木材の方針として①多摩産材、②防災協定を締結している市町村、③被災地の木材、④森林認証材があるとのこと。渋谷区訪問をきっかけに、予算の再要求を考えている。

・北秋田市：認証を取得してからの効果と取得後にかかる費用を比較したところ、負担費用が大きく、メリットが見出せないため、現時点では予定なし。

＜秋スギ部会（副会長）＞

・上小阿仁村は既に森林認証を取得しているが、これからも継続するのか。

＜事務局＞

・上小阿仁村：定期審査の予算が通ったため、継続していく。

＜秋スギ部会（副会長）＞

・おそらく、環境をテーマにした大阪万博でも同様に認証材が注目されるのではと思う。事業者が森林認証を取得する際には、助成を行うのか。

＜事務局（大館市）＞

・検討事項にはなるが、以前に認証を取得していない事業者を対象にアンケートを行った際、意向なしで回答が来たため、今後の見込みはない。

＜総務部会（副会長）＞

・いろいろな動きがあり、一概には言えない部分もあるが、国際的に違法伐採が問題となっており、国内でも違法伐採の事例が報告されている。どのようにして地域の木材がちゃんとしているものだとアピールしていくか。

＜秋スギ部会（部会員）＞

・そもそも認証制度に関しての認識がない。海外で違法伐採が当たり前になっていることから始まった制度ではあると思う。

＜事務局（大館市）＞

・地域構想で認証取得について記載しているため、到達点も“取得”としてさせていただきたい。

○伝統工芸品「大館曲げわっぱ」適材木供給・育成プロジェクト

【1. 適材木調査】

【2. 適材木育成】

＜事務局（大館市）＞

・適材木育成については、曲げわっぱの森を設置し、29年度に植栽体験、今年度は保育の部分として地元の小学生を呼んで下刈を実施した。適材木選別方法については、木高研の足立先生に調査していただきしており、データの蓄積がメインで実用化は未定。この項目については、木高研と確認しながら進めていきたい。

○その他

【素材の供給時期について】

＜総務部会（副部会長）＞

・大館市有林（岩瀬字繫沢）の皆伐で、時期的に12月～1月がメインとなったが、市況的にも足りない時期であった。それ以外は、夏の請負で不足する7月～8月が需要者側にとってはいいタイミングなのか。

＜秋スギ部会（副部会長）＞

・その時期は山に置いておくと虫害が発生し、雨が降ると木材に泥がついたりする。加工業者は泥がついた材を嫌う傾向にあるため、秋頃がいちばんいい。

【川下側との連携について】

＜事務局（大館市）＞

・今年度、大館市がウッドスタート宣言をした。今後、ウッドスタート宣言をしている民間企業等との連携ができればと思っている。

＜副部会長（秋スギ）＞

・大館市もおもちゃ美術館のようなものを作ろうとしているのか。

＜事務局＞

・具体的な話が出ていないが、子育て中の方々からの要望として、室内の遊び場がほしいとの話があるため、それに適う施設ではあるかと思う。林業サイドだけでは進められない検討課題の1つである。

～閉会～

